

★★★徳島県内 多職種連携事例紹介コーナー★★★

このコーナーでは、徳島県内で地域包括ケアシステム実現に向けて、多職種連携を通じて医療・介護を実践している先進事例をご紹介します。

「一人一人の命の輝きを大切にする」あおぞら内科



ケーススタディ

- ① あおぞら内科（徳島県吉野川市）
院長 馬木良文先生
- ② あおぞら内科訪問看護ステーション・あおぞら内科居宅介護支援センター（徳島県吉野川市）
所長 吉野牧子さん

◆吉野川市で心のこもった医療を提供

医療法人あおぞら内科は 2010 年に徳島県吉野川市に、馬木良文先生が開院した在宅医療に重点を置いたクリニックです。「一人ひとりの命の輝きを大切にする、尊厳を持って生きてゆく、そんなお手伝いができること」と院長である馬木先生の熱い想いを形にしており、総合的に患者さんを支えるために、クリニックとともに「あおぞら内科訪問看護ステーション」「あおぞら内科居宅介護支援センター」「ナーシングホームあおいそら」を併設しています。

一般内科診療も提供する「かかりつけ医」として、また専門である神経内科医としてのパーキンソン病などの神経・筋疾患に対する先進医療を提供するとともに、在宅医療として末期癌患者や難病患者、医療ケア児への心のこもった医療を提供しています。活動は医療・介護を提供するにとどまらず、2016 年には神経難病患者・重症心身障がい児や末期がんなど、医療依存度の高い患者さんやその家族を支えるために「NPO 法人在宅医療ネットワークあおいそら」を設立し地域医療・福祉に貢献しています。



◆在宅患者をチームで見守る

あおぞら内科では、末期癌や ALS 等の神経難病患者を中心に訪問診療を実施しています。病院で行う医療と訪問診療は別のものと考え、「訪問診療の治療対象は生活であり、生活に医療の考え方を入れるべきだ」と馬木先生は語ります。そのため、医療・介護職だけでなく、生活を支える職種は全てつながるべきだと考えています。

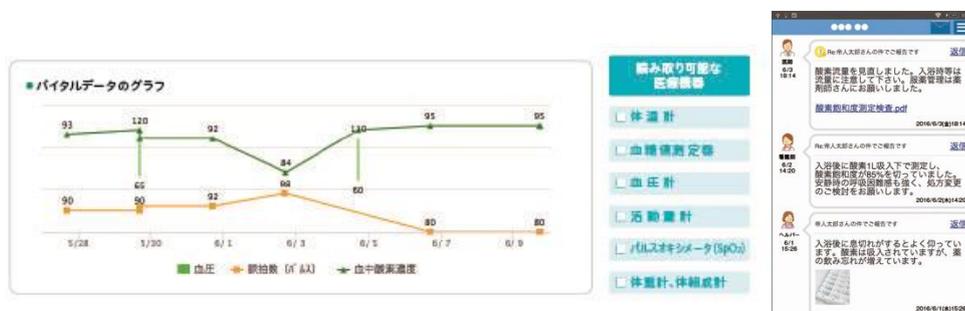
訪問看護師の吉野さんは「例えば医療職と保育士が情報連携すれば、今まで保育園に入りたくても入れなかつ

た子供が、他の幼児と机を並べることも可能になります。子どもの成長過程に関わる、より多くの職種がつながることで、患者と家族の望む生活が実現することもあります」と多職種チームの可能性について説明しています。

◆多職種情報共有システム「バイタルリンク」を活用しより効果的に連携を実現

訪問看護ステーションや居宅介護事業所等と密接な連携を実践し、地域の事業所とともに在宅医療のサポートシステムを構築してきたあおぞら内科だが、各事業所間の情報共有や連絡手段には課題を抱えていました。「患者の情報は、訪問したスタッフが、その都度ベッドサイドにおかれた手書きノートで共有することが一般的で、リアルタイムでの情報共有や意見交換が難しかったです」（馬木先生）。また緊急を要する時は、「電話で連絡するが、その内容を関係する多職種全員で共有するために、必要なときは、全ての関係機関に電話をかけていました」（吉野さん）。

そこで、効率的に情報を共有するため、医療法人あおぞら内科では、徳島県医師会が推奨している多職種情報共有システム「バイタルリンク」をいち早く導入しました。同システムは患者の情報をリアルタイムで簡単に共有ができる「連絡帳機能（SNS機能）」、バイタルデータを共有する「バイタルデータ管理機能」、処方薬を共有する「お薬情報機能」などを備えています。「シンプルで、誰でも使えます」（吉野さん）と簡単な操作が最大の特徴です。



馬木先生は、多職種連携とは「目標を共有し、各々の役割分担を明確にすることで、患者のQOLを最大限まで高める」事と考えています。

バイタルリンクを用いることで、これまでよりも情報共有が容易になり、「様々な報告・共有に役立っています。例えば、ケアマネジャーからはサービス担当者会議やケアプランの報告、訪問看護師からは訪問時の患者の症状変化の報告などを頻回にやりとりすることで、患者の状態をより正確に把握できるようになりました。また、写真を送る機能がとても役立っており、褥瘡や蕁麻疹などの患部の写真を共有しています」（吉野さん）。

複数の事業所が関わる中で処置や手技も統一でき、最適な治療を実現できている、また「歯科医が入ったことで、新たな治療方法を提案してもらったこともあます」（馬木先生）とケアや治療における利点を感じています。

馬木先生はバイタルリンクを通じてケアスタッフの意識を一つにできたと、システムの効果を実感しています。「多職種・多事業所でコミュニケーションをとるのに、バイタルリンクは有効なツールです。今後はバイタルリンクを基幹病院とも用いて二人主治医の実現に役立てたい、特に癌患者の看取りに活用していきたいです。そのことにより『本人が希望する在宅生活』の実現が可能になると思います」と馬木先生は展望を語りました。

<ご参考>

医療法人 あおぞら内科ホームページ

<http://aозora-c.com/naika/>

VitalLink (バイタルリンク) ホームページ

<https://tei.jin-331.jp/>